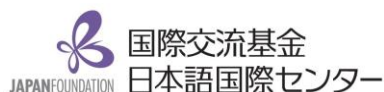


文字の教え方

Unit 2 実践 Part 2 かなの教え方(2)



1. はじめに

このパートでは Part I に続いて、日本語のかなの教え方について学びます。

みなさんは、かなの「書き」をどのように教えていますか。かなを覚えるためにはどのような

工夫くふうが必要でしょうか。その他、かなを教えるときに注意すべき点を取り上げます。

このパートのキーワード

字形じけい バランス 線・書き順かじゆん とめ・はね・はらい
補助線ほじょせん 記憶きおく 学習意欲がくしゅういよく

2. 「書き」の教え方

Part I の復習ふくしゅうですが、「読み」は字形を見て音がわかること、「書き」は音を聞いて文字が書けることです。最近はパソコンやスマホのキーボードで文字を入力することも多いですが、それも「書く」活動と考えられます。ただ、実際に手で書くと文字の細かい違いこまがわかり、覚えやすくなりますので、最初は手で書く活動を行うとよいでしょう。

では、皆さんはかなの「書き」をどのように教えていますか。

【タスク 1】「書き」を教える方法には、①指で書く、②筆^{ふで}で書く、③紙に書く、等がありますが、どんな違いがあると思いますか。

まず、指で書いてみると、字形の全体の特徴^{とくちょう}をとらえることができます。次に、筆で書くと、字形の細かい特徴を確認することができます。そして、紙に書くことで、字形のバランスを確認することができます。それぞれの方法の特徴を考えて、うまく組み合わせて使うとよいでしょう。

①指で書く

指で書くことを「空書^{くうしょ}」と言いますが、指で空中^{くうちゅう}や机に字を書きます。その時は、字の形と書き順をしっかり頭に入れてから一気^{いっき}に書くことが大切です。頭の中に字形のイメージを作ってから書くようにすると、書き方を早く、正しく覚えるこ



『文字・語彙を教える』より

とができます。字を見ながら線や形を少しずつ写^{うつ}して書く方法では、字形の全体の特徴をとらえることができません。

指の代わりに、身体^{からだ}を使って文字を書く方法もあります。たとえば、ひらがなの丸い形をゆったりした太極拳^{たいきょくけん}の動きで書く「ひらがな太極拳」や、カタカナの直線的な形を空手^{からて}のような素早い動き^{すばや}で書く「カタカナ空手」です。このような身体を使う方法を取り入れると、かなの書

き方を楽しく教えることができます。

『文字・語彙を教える』より

「ひらがな太極拳」



「カタカナ空手」



②筆で書く

字形の細かい特徴を確認するには、筆で書く方法が有効です。日本文化としての書道^{しやうどう}を取り入れると、学習者の興味^{きやうみ}や関心^{かんしん}を引くこともできます。筆を使って大きな字を書くことで、左から右、上から下、「とめ、はね、はらい」などの日本の文字の線の特徴を身につけることができます。

実際に筆と墨^{すみ}を使って書くだけではなく、筆に水をつけて新聞紙などに書いたり、筆ペンを使うなどの手軽^{てがる}な方法もあります。また、タブレットに指やタッチペンで大きな字を書いてみるのもよいでしょう。

③紙に書く

紙に書くと、自分が書いた字の形のバランスを確認することができます。紙に書くときも、お手本の文字を見ながら少しずつ書き写すのではなく、その字の全体のイメージを頭にしっかり

り入れてから書くことが大切です。

また、いろいろな練習シートを利用することもできます。

【タスク 2】 A～C の練習シートには、それぞれどのような特徴がありますか。

シート A

あ	あ	あ	あ	あ					
い	い	い	い	い					
う	う	う	う	う					
え	え	え	え	え					
お	お	お	お	お					

シート B

あ	あ	あ	あ	あ					
い	い	い	い	い					
う	う	う	う	う					
え	え	え	え	え					
お	お	お	お	お					

シート C

あ	あ	あ	あ	あ	あ	
い	い	い	い	い	い	
う	う	う	う	う	う	
え	え	え	え	え	え	
お	お	お	お	お	お	

A: 『日本語かな入門』(凡人社) p.5 より

B: 『JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE I
Kana Workbook』

(講談社インターナショナル) p.5 より

C: 『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE Kana Workbook』

(講談社インターナショナル) p.17 より

まず、どのシートも「^か書き順^{じゆん}」が示してあります。書き順通りに書けば、手の動きが自然なので、字の形を覚えやすく、きれいな字が書けるようになります。また、A と B は^{うす}薄い色の文字の上をなぞって書く「なぞり書き」ができますが、それによって正しくきれいな字の形を覚えることができます。そして、B と C には「^ほ補助線^{じよせん}」が使われていて、文字のバランスを注意しています。補助線は学習者が書いた文字を直すときにも使えます。このような練習シートの工夫を参考

にして教えると、学習者が正しく、きれいな文字が書けるようになります。

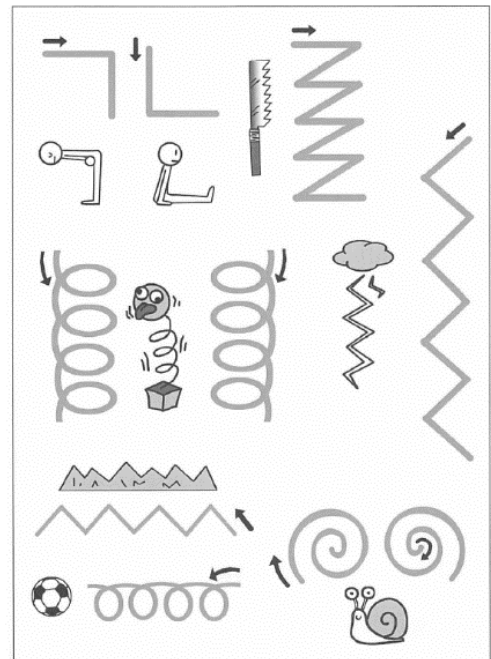
3. 「書き」の注意点

①線の書き方と書く順番（書き順）

先ほども触れましたが、日本語の文字は、線も形も、左から右、上から下に書くのが基本です。最初にかなを教えるときに、このルールを学習者に説明しておきましょう。線の特徴をつかむために、文字を書く前に右のような線の練習をしてもよいでしょう。

また、線の最後の「とめ、はね、はらい」の^く^{べつ}区別も大切です。かなの学習で線の書き方や書き順を身につけておくと、漢字の学習でも役に立ちます。最近は書き方をアニメーションで確認できるサイトやアプリもあるので、利用するとよいでしょう。

『文字・語彙を教える』より



②活字（フォント）と手書きの違い

「読み」でも触れましたが、学習者が活字やフォントの文字をまねして書くと、不自然な字形になってしまうので注意が必要です。「書き」を教えるときは、^{きょう か しやたい}教科書体を使うとよいでしょう。

う。

③学習者が書いた字を直す

【タスク 3】皆さんは学習者が下のような字を書いた場合、直しますか。直すとしたら、どのよう
に直しますか。

た い ま か ㊟

『文字・語彙を教える』より

「きれいな字」に対する考え方は人によってちがいますが、少なくとも他の字に読み間違え
られない字を書く必要があります。たとえば 2 番目の字は「い」なのか「り」なのか、迷ってし
まいますね。このような字は、やはり直したほうがいいでしょう。

きれいな字を書くためのポイントには、「全体のバランス」、「線の長さや角度」、「線の最後の
「とめ、はね、はらい」」があります。学習者が書いた文字のどの部分に問題があるのかをはっ
きり示すことが大切です。

全体のバランスや線の長さ、角度を示すには、練習シートで
紹介したような「補助線」を使うとよいでしょう。カタカナのツと
シの書き分けは難しいですが、右のようにひらがなのツとシを
補助線として利用して示す方法もあります。



〈参考〉キーボード入力

文字を書く活動としてのキーボード入力にも注意点があります。最近では、手で書くよりもパソコンやスマホの画面にキーボードで入力する機会きかいの方が多いかもしれませんが、みなさんは、授業でキーボード入力を取り入れていますか。

キーボード入力の方法には、ローマ字入力とかな入力がありますが、海外ではローマ字入力の方が多いと思います。ローマ字入力では、かなの「読み」の導入どうにゅうで使った「五十音表」のローマ字を使います。そして、「読み」で注意する文字は、ローマ字入力でも注意が必要です。

【タスク 4】ローマ字入力で注意する点をまとめましょう。

助詞「は、へ、を」	
四つがな	
長音	
促音	
拗音	
外来語の表記	

※インターネットを使って、いろいろな「ローマ字入力表」をさがしてみましょう。

4. 文字学習の工夫

【タスク 5】日本語の文字学習の難しい点はなんでしょう。

Unit1 で紹介したように日本語は文字の種類が多く、使い方も複雑^{ふくざつ}なので、(1) 覚えなければならぬ文字が多いという難しさがあります。また、(2) 文字を覚える学習活動^{たんちよう}は単調になりがちです。

たくさんの文字を覚えるためには、記憶^{きおく}に残す工夫が必要です。具体的には、何度も繰り返^くすことと、印象^{いんしょう}に残る覚え方になります。たとえば Part1 でとりあげた連想^{れんそうほう}法は印象に残る覚え方と言えます。

そして、単調な学習活動とならないように、学習意欲^{いよく}を高める工夫が必要です。

【タスク6】学習意欲を高めるには、どんな方法があると思いますか。

まず、Part1 でも紹介しましたが、①レアリアと言って、チラシやメニュー、マンガなどの生の素材^{そざい}や実物^{じつぶつ}を使う方法があります。レアリアは、学習者の興味・関心を引き出したり、文字が身近なもの、そして必要なものという実感^{じっかん}を持たせたりすることができます。

また、②いろいろなゲームもあります。カードを使うものやパズルの他、最近ではパソコンやスマホの学習アプリもあります。ゲームは、楽しく、あきずに取り組めて、パズルが「できた」、ゲー

ムに「勝^かった」という達成感^{たっせいかん}も得ることができます。

そして、どちらも学習者の状況に合った無理のない目標^{せってい}を設定して、素材や活動を選ぶことが大切です。

【タスク 7】下のパズル 1、2、3は、それぞれ何を目的としていますか。

1. せんむすび Dot-to-Dot



2. ことばさがし Wordsearch

う	え	あ	か	い
か	あ	え	き	お
く	お	い	あ	き
き	い	け	こ	う
こ	こ	お	え	え

ex. えき
① あかい ② あおい ③ ここ
④ うえ ⑤ く

3. クロスワード Crossword



『Japanese For Young People I: Kana Workbook』より

同じひらがなのパズルでもそれぞれ目的が異なり、文字の学習がことばの学習とつながっていることがわかります。かなの学習では、文字だけをバラバラに覚えるよりも、ことばの形で覚えるほうが実は覚えやすく、実際の生活でも使うことができます。

5. まとめ

かなの「書き」では、字形の全体の特徴をとらえたうえで、細かい特徴とバランスを確認することが大切です。かなの線や書き順を身につけることは、漢字の学習にも役立ちます。

文字の学習では、記憶に残すことと、学習意欲を高める必要があります。そして、文字の学習は、ことばの学習とつながっています。

■ このパートの参考文献

・国際交流基金(2011)『文字・語彙を教える』(国際交流基金 日本語教授法シリーズ

3) ひつじ書房

・国際交流基金(2013)『まるごと 日本のことばと文化 入門 りかい』(三修社)

・AJALT(2012)『Japanese For Young People I: Kana Workbook』 Kodansha

International.

■ タスクの答え

【タスク 1】(答えなし)

【タスク 2】(答えなし)

【タスク 3】(答えなし)

【タスク 4】

助詞「は、へ、を」	発音通りではなく、文字の音で入力する。「を」は「 <u>w</u> o」
四つがな	ダ行の「ぢ、づ」の子音が d になる
長音	かなの表記通りに入力する。 例) とけい→to <u>k</u> ei(発音はトケー)、テ <u>ー</u> ブル→te <u>_</u> buru
促音	次の文字のはじめの子音を2回かさねる。 例) ざっし→za <u>s</u> s(h)i、ベ <u>っ</u> ド→be <u>d</u> do
拗音	①子音と母音の間に y を入れる。例) と <u>う</u> き <u>ょ</u> う→to <u>u</u> ky <u>o</u> u ②子音がch、sh、jのときは、そのまま母音をつける。 例) お <u>ち</u> ゃ→o <u>ch</u> a、 <u>じゅ</u> ース→j <u>u</u> -su、 <u>しゃ</u> ツ→sh <u>a</u> t(s)u
外来語の表記	①子音に f、v を使う。 例) ソ <u>ふ</u> ア→so <u>f</u> a、 ②小さい文字の母音は、前に x または l をつける。 例) テ <u>い</u> ー→te <u>x</u> i-(l <u>i</u> -)

【タスク 5】(答えなし)

【タスク 6】(答えなし)

【タスク 7】

1	ひらがなを五十音の順番に線で結んでいく。
2	バラバラにならんだひらがなから、ことばに使われている文字を探す。
3	絵に合う日本語のことばを考えて、そのことばをひらがなで書く